

令和3年度 全国学力学習状況調査 数学科分析

1 正答率の高かった問題

- 分野にとらわれず、基礎の問題は大多数の生徒が正答している。
- 特に、グラフから適切な点を読み取る問題は正答率が100%である。
- 計算問題や立式も正答率は70%程度ある。

2 正答率の低かった問題

- 図形・資料の活用など、数学的用語を使って文章で説明する問題は正答率が低い。
- 根拠となることを考える（選ぶ）問題では、正答率が低だけでなく、出題者の想定外の誤答が多い。

3 全体を通して

- 特に説明を求められる問題に弱い。
- 数学的思考が求められる中学2年生以降はコロナ禍にあり、集団の中で数学的な説明を共有する機会が極端に少なくなっていることも要因の一つであると考えられる。

しかし、思考力を求められる問題では、問題文が長くても自分なりに考えようとしており、無回答が少ない傾向にある。

- 全体では、半分以上の問題は70%程度の正答率があり、大多数の生徒が概ね理解できていると考えられる。
- 数学は苦手ではあるが、意欲はあり、わかりたいと思っている。
- コロナ禍で制限はあるが、自分の考えを整理し、まずは小集団の中で説明する機会を増やしていきたい。
- 思考力は入試でも求められるので、早いうちから少しずつ慣らしていきたい。